

宮城大学 後援会報

Vol.64

発行日
令和7年2月28日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編集
宮城大学後援会事務局

主催事業 立川志らく公演会

忘れかけていた小さな幸せを感じた

後援会理事 尾形 文男

宮城大学後援会では、令和6年度後援会主催事業として、昨年11月24日に大和キャンパス講堂において『立川志らく公演会』を開催いたしました。

今回は、落語家であり、テレビ・ラジオのコメンテーター、執筆活動等幅広く活躍中の立川志らく師匠をお招きし、会員の皆様をはじめ、日頃より世話になっております近隣住民の方も含めまして、700名を超える聴衆者の参加があり、会場は満席となり笑いの坩堝となり大盛況でした。

志らく師匠は、古くから伝わる伝統的な落語を継承しつつ、様々な活動を通して得た知識や経験を活かし独自の切込みで社会評価、人物評価を行い多くの方々からの支持を得ています。

特にバラエティー番組やニュース番組のコメントや場を和ませるユーモアあるコメントも交えながら、その幅広い知見、多彩な才能をいかななく発揮されています。

はじめに、志らく師匠の18番弟子立川志音さんの一席がありました。初々しいはつらつとした話に会場も盛り上がり、志らく師匠の出演を待ちました。

志らく師匠の登場で、場内大きな拍手が起こり、公演が始まりました。冒頭、立川談志師匠への入門のいきさつ、談志師匠とのエピソード、また、若かりし頃の宮城仙台とかかわりなどをお話いただき大いに会場を盛り上げていただきました。酒にまつわるお断として『親子

酒』を披露していただきました。親子ともども酒にまつわる失敗から禁酒を誓いますが、酒の誘惑に耐え切れず徐々に酒におぼれ、大酒飲みに戻ってしまうというなんとも滑稽なお断でした。

二席目は人情物の代表とされ多くのファンの間に広く親しまれるお断『芝浜』を披露していただきました。師匠である立川談志の十八番であるこの断は、魚河岸を舞台に夫婦の情愛を描いた人情断であり、それをさらに創意・工夫を重ね、進化させた、立川志らく師匠流の『芝浜』でした。

「人間、金や欲に溺れず、地道に仕事を行い日々の暮らしに感謝しつつ、愛する人と仲睦まじい生活を送るという極めて庶民的な人間らしい営みが大切なんだ。」というような強いメッセージを感じ取ることができました。多くの聴衆者の皆様が志らく師匠のお断に固唾を呑みながら聞き入っている様子を拝見し、さすが一流の断家だなど再認識いたしました。

この公演会を通して、われわれが忘れかけた小さな幸せである『笑うこと』『日々平凡な日常』の大切さを改めて知ることができたような気がします。多くの聴衆者の皆様も同じような感覚をお持ちになったことと思います。予定された時間はあっという間に過ぎ去り、やむことのない拍手の中、その幕を閉じました。

最後になりますが、会員の皆様、引き続き後援活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



写真撮影：写真サークル FLASH



記事一覧

- 2面●大和キャンパス大学祭の報告
- 3面●太白キャンパス大学祭の報告
- 4面●サークル活動紹介(お茶娘倶楽部・軽音楽サークル)
- 5面●コンボケーションディ「秋」/キャリア開発事業報告

- 6面●学びの場「第1回MYUアイデアコンテスト審査結果」
- 7面●シリーズ コラム/絆(食産業学群20周年記念)
- 8面●教員からの一言/お知らせ(後援会・大学)/お問い合せ先

2024.10.13(Sun)、14(Mon)

宮城大学大和キャンパス大学祭

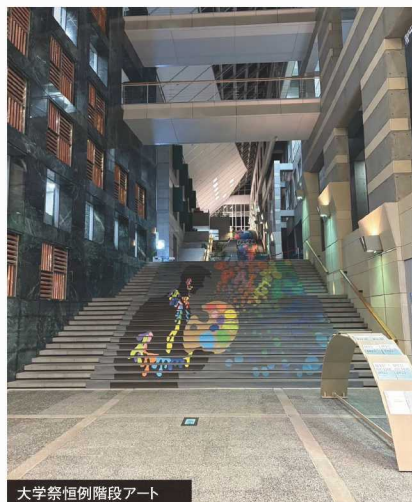
令和6年10月13日・14日の2日間にわたり、宮城大学大和キャンパスにて大学祭を開催いたしました。

まず、令和6年度の大学祭の成功にお力を貸してくださった協賛企業様、大学関係者の皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年度の大学祭は、2日間とも驚くほどの快晴で、天候に恵まれたお祭り日和となりました。そして多くのお客様にご来場いただき、屋内・屋外イベントともに大盛況の2日間でした。

今年度も学内対応部署が学生から露店出店団体を有志で募集しました。昨年度を超える数である23店舗の露店が、大学祭を大いに盛り上げていました！お祭りの定番である焼きそばやフライドポテトをはじめ、タンドリーや焼きナポリタンなど、近年のトレンドを取り入れた商品などもあり、多くのお客様に満喫していただくことができました。

屋外ステージでは、軽音サークル、rhythm square、娘すずめ。などの本キャンパスのサークルのパフォーマンスに加え、企画部署がカラオケバトルや腕相撲大会、スペシャルゲストステージなどの企画で、笑いあり涙ありの素晴らしい盛り上がりを見ることができました。



大学祭恒例階段アート

本部棟内では、装飾部署が、大和キャンパスの象徴である大階段を、今年度の大学祭のテーマである“palette”仕様に彩りました。そして、企画部署と装飾部署が協力して企画・準備した、老若男



学祭を彩った入門ゲート



露店を楽しむ代表

女問わず楽しむことができるお化け屋敷や謎解きゲームなどの学内企画で多くの方々に楽しんでいただくことができました。

そして2日目のエンディングでは、大和キャンパスの夜空に綺麗な花火が打ち上がり、感動のフィナーレで大学祭は幕を閉じました。

「大学祭を成功させたい。」このたった2日間のためだけに、約1年間という長い時間をかけて、本気で準備してきました。そしてありがたいことに、大成功で幕を閉じることができました。テント設置や駐車場警備など、なかなか見えないところで汗水流して頑張った学内対応部署。お客様がより大学祭を楽しむことができるようにするためにポスターやパンフレットを作ったDTP部署。より大規模で盛り上がる大学祭にするために毎日渉外活動を頑張ったPR部署。大学祭をとっても可愛く彩った装飾部署。お客様が楽しむことが出来る企画を考えて準備した企画部署。役割は違えど、大学祭を成功させたいというFesっ子のみんなの1つの思いが、この大成功につながったと思います。こんなにも素晴らしい組織のリーダーでいることができたこと、本当に一生の誇りです。たくさんありがとうございました。

来年度の大学祭は、間違いなく今年度を超える素晴らしい大学祭になります。今後も宮城大学、そして宮城県の発展に貢献できるよう、大学祭実行委員会一同頑張ってまいりますので、よろしく願いいたします。



大和キャンパスの夜空に打ちあがった花火



Fesっ子のみんな

大和キャンパス大学祭実行委員長
事業構想学群事業プランニング学類 2年 吉田 慧翔



2024.11.3(Sun)、4(Mon)

宮城大学太白キャンパス大学祭

太白キャンパス大学祭実行委員長
食産業学群生物生産学類 2年 田中 慶裕

令和6年度の太白キャンパス大学祭実行委員会の委員長を務めました、食産業学群2年生の田中慶裕と申します。

初めに、令和6年度の大学祭にご協力いただいた学生や先生方、お越しくださった地域の方々に感謝の意を示させていただきま

す。本当にありがとうございました。

私たちは11月3日、4日の2日間にわたり大学祭を取り仕切りました。令和6年度は食産業学群の創立20周年を迎える中、今回の大学祭は

昨年以上に地域の方々が楽しみやすいような大学祭という方向性を掲げ、様々な新しい取組の準備をしてきました。その一つが、宮城大学の卒業生から仕入れた農産物の販売です。昨年の販売でも好評でしたので、仕入先および品数を増やしました。開催時期が秋真っ只中ということもあり、緑黄色野菜などの農産物を用意することが出来なかったのが、果物や味噌やドライフルーツといった加工食品などを仕入れて販売しました。2日間でほとんどの商品が完売することとなり、本年度も大変盛況で本当に良かったと安心しております。

また、去年は家族でのご来場も多かったことから、今回はお子様も楽しめるアクティビティとしてペーパーフラワー製作体験と、作ったお花を使った模擬店での割引システムも導入しました。製作体験は1日目のみでしたが、40名を超えるお子さんに楽しんでもら



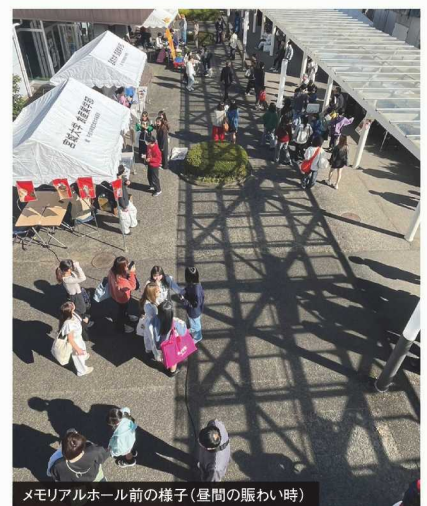
模擬店の様子



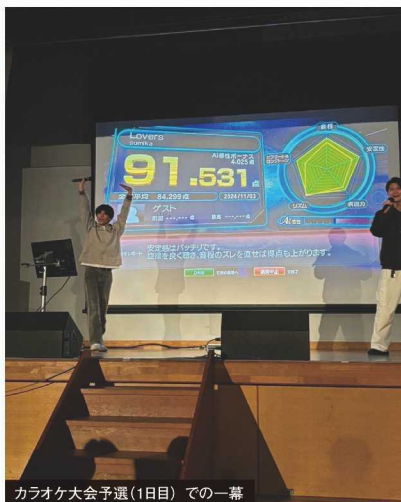
ペーパーフラワー製作体験の様子

て、新たな取り組みは確かな成功を感じられました。その影響もあってか、露店では大人のお客様はもちろん、子供たちが露店のフードを楽しむ姿も多く見受けられました。

その他にも、ゲストにフルーツポンチさんを迎えたお笑いライブやカラオケ大会、サークル発表など昨年以上に楽しみいただける様子が全体的に多くみられました。未だコロナ禍の禍根が残る中、太白キャンパスの大学祭として新たな一歩を踏み出すことができた実感できており、実行委員としても改善すべき点や学びが多く得られた一年でした。改めて、本大学祭に携わったすべての方に感謝申し上げます。



メモリアルホール前の様子(昼間の賑わい時)



カラオケ大会予選(1日目)での一幕



ダンスサークルの発表

サークル活動

茶道の魅力を学び、伝える



お茶娘倶楽部 代表
食産業学群生物生産学類2年 五十嵐 唯帆

「お茶娘倶楽部」とは、外部の先生から茶道のお点前や礼儀作法、歴史を学ぶサークルです。

私は大学から茶道を始めた初心者で、右も左もわからずに入部するのは不安でしたが、先輩の中でも大学から始めた方がいたことや先生が一から優しく教えてくれたのもあり、すぐに馴染むことができました。いつかお稽古の成果が見せられる機会が欲しいと思っていましたが、令和5年は部員3名しかいなかったこともあり、大学祭に出店することができずに残念な気持ちが残ってしまいました。しかし、令和6年の今年は多くの新入部員が入ってくれたおかげで大学祭に出店できるチャンスがやってきました。さらに、活動場所である和室の畳が新しく張り替わったことで、晴れやかな気持ちで活動に挑めるようになり、お稽古をするのもより楽しくなりました。

コロナ明け初めての出店ということで、誰も大学祭を経験したことがなく、販売するコース内容、値段設定、お茶菓子選びなど様々なことで悩み、ミーティングを重ねて試行錯誤しながら準備を進めていきました。さらに、足りない御道具は先生からお借りして、本格的な環境に整えました。そして迎えた大



学祭当日は、予想以上のお客様が来てくれたことにより大成功の結果で幕を閉じることができました。また、来客してくれたお客様の中で過去に茶道を習っていた方には懐かしい気持ちになっていただけたりと、初めて茶道に触れる方は本格的な茶道に感動していただけたりと、この大学祭をきっかけにして茶道に興味を持つ方を増やすことができたのではないかと考えます。

まだまだ完璧なお点前とは程遠く、お稽古を続けて練習を重ねていかなければならないですが、これからも茶道という日本の和の文化を学ぶことで教養を身に付け、このサークルで活動することが楽しいと思えるような環境を作り続けていきたいです。そして、その成果をまた来年の大学祭で発揮し、多くの人に茶道について知ってもらえる機会を作っていきたいです。



サークル活動再開と音楽の力の実感



宮城大学軽音楽サークル 元代表
事業構想学群 価値創造デザイン学類 3年 狩野 駿介

宮城大学軽音楽サークルは、私が代表を務めた令和5年度から令和6年度にかけてサークル活動の再構築と活性化を行ってきました。本寄稿では、その主な活動内容をご紹介します。

令和5年度は、コロナ禍による活動制限が緩和され、軽音楽サークルとしての活動を再開した節目の年でした。活動再開に伴って機材の整理整頓や壊れていた機材の再調達を行なった際、後援会の助成金を活用させていただいたこと、改めて、心より感謝申し上げます。

活動面では、新歓ライブ、サマーライブ、学祭での演奏を通じて、学生同士の交流を図りました。令和4年度はライブがほとんど無かったため、ライブが出来ることの嬉しさや、その企画運営の難しさを実感しました。そして、宮城大学の音楽系サークルが合同で行うイベント“Baggy Night”を数年ぶりに復活させ、多くの参加者から好評をいただきました。

令和6年度には、さらに活発な活動を展開しました。特に注力したのは月一回の定期ライブです。各ライブでコンセプトを設定し、出来るだけ多くのメンバーがステージに立つことができるように尽くしました。

そして令和6年度が昨年度と比べて大きく変わったのは、定禅寺ストリートジャズフェスティバルへの参加や、コロナ以降初となるライブハウスでのライブ開催、大白キャンパスのサークルとの合同ライブなど、外部と関わる活動を積極的行なっ

たことです。普段のライブは学内で、しかも観客の半分はサークルメンバーという状況でライブを行っていました。そんな中、学外の方々の前でライブを行い、音楽で知らない人たちと気持ちを通わせる一体感や喜びを感じることができ、メンバー一人ひとりの演奏スキルやチームワークも向上しました。

軽音楽サークルはこれからも音楽を通じて学生生活をより充実させる場であり続けたいと考えております。後援会をはじめ、多くの方々のご支援に感謝しつつ、今後もさらに楽しい活動を目指してまいります。



Baggy Nightでのパフォーマンス



R6年度大学祭での集合写真

「新入生が学び合い、つながる『秋のコンボケーションデイ』 ～多様性を尊重し、地域と未来を見据えて～」

宮城大学の後期がにぎやかにスタート

令和6年10月3日、宮城大学太白キャンパスにおいて、3つの学群の2024年度入学生が一堂に会し、「秋のコンボケーションデイ」が開催されました。

太白キャンパスを舞台に、3つの学群が一つに！

本イベントは年に2回開催されており、春のコンボケーションデイではパラスポーツへの理解を深め、多様性を尊重する姿勢を学びました。今回の秋の開催では、3つの学群の新入生が協力しながら主体的に参加する以下のプログラムを通じて、さらなる交流と成長の機会を提供しました。

- **太白キャンパス・ヒント・クエスト**：キャンパスを探索しながら、チームワークやコミュニケーションスキルを育む体験型アクティビティ。
- **ローカル・クイズ・チャレンジ**：地域の産業や食文化を学び、チーム内で意見を出し合いながら問題解決を図るプログラム。
- **フードイノベーション・ワークショップ**：社会課題をテーマに食品開発を行い、発想力やプレゼンテーション力を磨く実践的な活動。

これらのプログラムは、地域理解や多様性の尊重といった大学の教育的な目標を反映しており、新入生たちが主体的に参加することで、大学生活の基盤を築く設計となっています。

学生たちの声

「自分のチームはクイズで県内の産業や観光地について学ぶことができました。在学中に、訪問してみたい場所が増えました。」(看護学群1年)

「太白キャンパスに初めて来ました。自分が普段通っているキャンパスにはない施設や機器がたくさんあって、異なるキャンパスの学びの一端を知ることができました。学群を超えた取り組みがあればまた参加したいです。」(事業構想学群1年)

「最初は緊張していたけれど、グループのメンバーと協力してクイズを解いたり、新しいレシピを考えたりするのがすごく楽しかったです。ワークショップでは、自分のアイデアが採用され、みんなと一緒に形にできたことが嬉しかったです。」(食産業学群1年)



イベントの成果と今後の展望

コンボケーションデイは、単なる交流イベントにとどまらず、大学生活が実り豊かなものとなるための多くの学びを得る機会となりました。

- **アイデンティティの形成**：学生たちは、大学がある地域社会を知り他学群の学生に触れることで、地域と大学への愛着が深まり宮城大学の一員であることを再認識することができました。
- **社会性スキルの向上**：グループワークやプレゼンテーションなど、様々な活動を通して、コミュニケーション能力や協調性、リーダーシップといった社会性を育むことができました。
- **孤立化の防止**：初対面の新入生同士が交流し仲間づくりをする機会を通じて、大学での孤独感を解消し、安心して大学生活を送れるきっかけを得ました。

宮城大学は、これからも学生一人ひとりが社会に貢献できる人材へと成長するための多様な学びの場を提供してまいります。今後も、さらなる創造的なプログラムを通じて、地域社会と未来を担う学生のつながりを深めていく予定です。

太白事務室教務・学生支援グループ

キャリア開発事業支援

Ⅱ 報告 Ⅱ

本学では、後援会からのご支援により、学生に向けた様々なキャリア開発の取組を実施しています。令和6年度は、看護学群生を対象とした国家試験対策、事業構想学群生を対象としたエントリーシート作成指導、食産業学群生を対象とした自己分析・適職発見プログラム等、学群ごとに必要な取組を実施しました。

また、上記のほか、全学生を対象とした学内イベントとして、12月4日(水)、大和キャンパスにて「合同業界研究セミナー」を実施しました。本セミナーは、既に就職活動を開始している学生や、将来のことをこれから本格的に考えようとしている学生に、「こういう業界・仕事があるのか」というイメージを持ってもらい、自身のキャリア形成・就職活動に役立ててもらうためのイベントです。

宮城県内外から、本学学生の採用意欲をお持ちの87の企業・団体の人事担当者や本学OB・OGの皆様にお越しいただき、学生に対して各業界の事業内容や働きがい等についてお話しいただきました。

各学群や研究科から243名の学生が参加し、参加した学生からは、「今まで関心を持っていなかった業界や企業の話を聞き、大変有益な情報を得ることができた」「企業研究の大切さを理解できたので、より頑張りたいと思った」といった声が聞かれました。

引き続き、学生の満足度の高い進路実現のため、キャリア開発事業の更なる充実に向けて取り組んでまいりますので、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

学生支援課

キャリア開発グループ



第1回 MYUアイデアコンテスト

「でるコン2024」の最終審査を開催

宮城大学で初となるビジネスプランコンテスト「でるコン2024」の最終審査を10月30日（水）に開催しました。

ご承知のように、本学は事業構想学群、看護学群、食産業学群のいずれもが、実学に立脚した、そして社会に実装することを視野に入れた教育研究を行っています。本学に集う学生も、実社会との関わりを大切に思っており、本学での学びを通して常日頃から社会に貢献し得る取組を考えています。その意味では、満を持してのビジネスプランコンテストの開催となりました。

初めての開催であり、予算の獲得から始まり、ワーキンググループを立ち上げて、夏前から入念に準備をしてきました。それでも「本当に学生からの応募があるのだろうか」と心配でしたが、その心配は無用でした。ふわっと部門22件、ごりと部門15件、計37件もの応募がありました。



どのアイデアも本当にレベルが高く、一次審査は接戦でした。その接戦を通過した8組のみが最終審査に臨み、プレゼンテーションを行いました。審査員には、佐々木啓一学長をはじめとする本学教員の他、経済界、自治体からも4名の有識者

を招いて最終審査が行われ、受賞者が決定しました。受賞者にはビジネスプラン実現のための活動費も授与されました。

記念すべき第1回を終えて、発起人の一人である佐々木啓一学長からは「プレゼンしていたいた全課題が素晴らしい出来でした。ふわっと部門で最優秀賞の『フードレスキュー！ガチャ』や、ごりっと部門で最優秀賞の『Kamin』などは、どこかの企業に提案してもビジネスとして成り立つような内容でした。また本学学生のプレゼン能力の高さには驚かされることばかりです。応募いただいた全課題、全チームに、この場でプレゼンをしてほしかったと思っています。この取組は、来年も続けていきますので、より多くの応募を期待しています。」とコメントがありました。

また、看護学群の霜山准教授からは、「最終審査に残った演題だけでなく、一次審査に応募してくれた演題もすべて今後の事業の発展を楽しみにさせてくれる内容だったと思います。今回は初回ということもあり、学群単位での応募が中心でしたが、事業構想×看護、食産業×事業構想、看護×食産業といった学群を超えたダイナミクスを期待しています。学生同士の強みを活かして、他学群と

の協働を恐れずにチャレンジしていったほしいと思います。学生同士の活動を促進させることが発起人として教員がいることの意義とも考えています」とコメントがありました。

ぜひ、次年度の開催も楽しみに！

コンテスト事務局 学生支援課



花里先生からのメッセージ(下)

地元の味に思いを馳せて

看護学群在宅看護学領域 教授 花里 陽子

冬のこの時期なると無性に食べたくなる、正月にも欠かせない福島県の郷土料理。年末になると母と一緒に作る料理の一つ「イカニンジン」。江戸時代から福島で食べられてきたと言われている伝統料理で文化庁に認定された100年フードの一つである。福島県を代表する自慢の郷土料理だ。

作り方は簡単である。材料は細切りにしたスルメイカと長ニンジン、漬け汁。ニンジンとスルメイカは細切りにする。スルメイカはぬるま湯で洗い、日本酒をふり30分おく。鍋に砂糖、醤油、みりん、日本酒、水を入れ、沸騰したら火を止めて、ニンジンを入れる。冷めてからスルメイカを入れ、味が染み込めば完成。これが母のレシピ。シンプルだが、ニンジンのシャキシャキした食感と、スルメイカのうま味がしみ込んだ甘辛い味付けが、ご飯のお供にもお酒のつまみにもなり、箸が止まらない。

美味しい「イカニンジン」を作る伝授は、下ごしらえのひと手間を惜しまないこと、長ニンジンを使うこと。しかし、今年は長ニンジンが手に入らなかった。普通のニンジンでもよいが、やはり味の濃さと歯ごたえが違う。漬け汁の調味料の分量は、味見をしながら自分好みの味に調整して作るのが好

いその家庭の味のような。

地元の味に思いを馳せるとき、改めて思う。日本の食文化は、日常生活を取り巻く様々な環境で育まれた、重要な地域資源である。人間にとって食べることは、人が人と結びつき共に生きていくことに深く関わった文化的な行為でもあり、行事や出来事と関連し記憶にしっかりと刻まれている。食は命と生活の根幹であり、食べることは、人としての尊厳にかかわる。食べる幸せ、食べる喜びを支援することは、生きることを支える重要な看護の一つである。その人が大切にしていく食習慣や食への思いを大切にしたい。



はなぞと ようこ
花里 陽子

1993年～大学病院、ホスピス、訪問看護で看護を实践
2011年～在宅看護学の教育に携わる

絆

No.33

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。
今回は法人理事兼副学長でもある食産業学群西川正純教授に食産業学群創立20周年記念式典の様子についてご寄稿いただきました。

宮城大学食産業学群開設20周年を迎えて！

食産業学群・教授 西川 正純

宮城大学食産業学群は、2005年4月の設置から2017年の学群・学類制への移行を経て、今年20周年目を迎えました。これを記念して、2024年11月3日に記念講演会が開催されました。講演会には、宮城大学名誉教授の池戸重信先生と、食産業学部(当時)6期卒の3名(株式会社渡辺採種場の高橋祐紀さん(ファームビジネス学科)、味の素AGF株式会社の佐伯奈央子さん(フードビジネス学科)、農林水産省の保志直弥さん(環境システム学科))をお招きしました。池戸先生からは、記念講演「これまでの20年・これからの20年」と題して、食産業学部開設当初の思い出から、食産業と消費者の関わりについてご講演いただきました。その中で、我が国の食料政策における産官学連携の重要性、そして消費者の理解と信頼を得ることが食産業の発展に不可欠であると述べられました。池戸先生のご講演を受け、食産業学群は今後も消費者に対して正確で分かりやすい情報提供を行い、流通や技術の革新に貢献することで、より良い食の未来を築くことを目指す決意を新たにしました。

また、卒業生3名からは、それぞれの現在の仕事内容と大学で学んだ知識がどのようにに役立っているかを具体的に語っていただきました。特に、専門分野の学びが現在の職業選択に大きな影響を与えたことや、学生時代に身につけた知識が日々の業務に役立っていることが強調されました。

講演会には約100名が参加し、教職

宮城大学食産業学群 20 周年記念講演会



前列左から：森本副学長、三石副学長、佐野理事長、池戸名誉教授、佐々木学長、井上食産業学群群長兼研究課長、西川理事
後列左から：工藤理事、佐々木理事、蒔苗副学長、卒業生佐伯さん、卒業生高橋さん、卒業生保志さん、森田副学群長、岩井生物生産学群長、毛利フードマネジメント学群長

員、卒業生、在校生はもとより、後援会、宮城県農業短期大学の同窓会の方々もいらっしやいました。卒業生たちの活躍は、在学生にとって大きな励みとなることでしょう。

また、講演会後の20周年記念パーティーでは、卒業生たちの在学時の楽しい思い出が写真とともに紹介され、和やかな時間が共有されました。卒業生たちの成功と感謝の言葉は、食産業学群の教育の成果を示すものであり、今後の大きな発展に繋がるものと確信しております。

教員からの一言

仕事でこころ、趣味でからだを。

看護学群准教授 平泉 拓



宮城大学に着任して5年目になりました平泉拓と申します。2014年度に1年間、太白キャンパスで、契約職員として学生相談室のカウンセラーをしていたこともあり、再び宮城大学に着任した日の喜びを鮮明に覚えています。専門分野は心理学で、心理専門職（公認心理師、臨床心理士）でもあります。心理学は、人間のこころを扱い、人間がさまざまなこころをもった存在であることを実証し、こころの健康を保持・増進する実践をします。研究では、オンラインで精神療法（主に対話を通じて精神的な不調からの回復を支える実践です。）を安全に提供する方法について検討しています。教育では、看護師教育課程で、主に人間の心理と発達に関する授業を担当しています。近い将来、看護師になる学生に、こころに関する知識と技術をお伝えできることに、やりがいを感じています。

趣味は、陸上（長距離）です。種目は、5,000m、10,000m、ハーフマラソン、フルマラソン、トレイルランニング（山を走って登り、走って下る種目）です。お気に入りのポイントは、頭をからっぽにして競技に集中できることです。これを心理学の用語では「マインドフルネス」といいます。また、人間のからだの仕組みが、不思議で、合理的で、興味が津々です。目標を立てて、トレーニングし、省察し、故障したら、身体の特長家（整形外科医、理学療法士、アスレチックトレーナー、柔道整復師、鍼灸師の先生方）に助言をいただき、リハビリの計画を立て、実行していきます。患者になって気づくことも多いです。

学生から「なぜ走るのか」と質問が寄せられることがあります。私が走る理由は、小学生の頃に遠くまで速く走ることが楽しかったことと、担任の先生に褒められたからです。出会いが糧になって、業としてこころを、趣味としてからだを扱うようになり、楽しく過ごすことができています。私も誰かの人生の糧になってもらえるように、日々鍛錬します。

後援会からのお知らせ

令和7年度 総会のご案内

令和7年度後援会総会を開催いたします。議題は令和6年度事業報告・決算と令和7年度事業計画・予算案などです。総会案内文を同封しておりますので日時等ご確認の上、ご出席くださいますようお願いいたします。

役員の募集

後援会では、現1年生～3年生の父母・保証人の方で学生・大学・会員のために後援会運営に携わってくださる方を募集しています。ぜひ後援会事務局までご連絡ください。

後援会事務局 022 (377) 8381 myu_kouenkai@myu.ac.jp

終身会員制度のご案内

後援会では学生の卒業後も加入を継続できる終身会員制度を設けています。

終身会員は学生と大学に対して更なる充実した支援で物心両面から支える活動に賛同された卒業生の父母・保証人様の希望によりご加入いただくもので、これまで多くの方々に入会いただいております。入会後は20年間「会報による後援会活動の報告」「サポーターズデイや講演会のご案内」「終身会員のみが集うイベント案内」を差し上げます。

令和6年度にご卒業された学生の父母・保証人の皆様には、改めてご案内いたします。何卒、制度の趣旨をご理解いただき多くの方にご加入いただきますようお願いいたします。

令和7年度 主催事業

会員を対象とする「MYUサポーターズデイ」や「講演会」を令和7年度も開催予定です。日時などが決まりましたらご案内いたします。

大学からのお知らせ

令和6年度 宮城大学学位記授与式

令和6年度宮城大学学位記授与式は、以下の日時で開催いたします。当日の式典の様子は、インターネットでライブ配信いたします。

また、卒業生1人につき御家族2人まで入場できます。（事前連絡は不要）

席に限りがございますので、状況によっては受付できない場合がございます。あらかじめご了承ください。

詳細は、卒業生宛てに学内メールにてお知らせしております。

- 開催日程 ●日時：令和7年3月19日（水）10：00～
●場所：宮城大学大和キャンパス講堂

大学ではSNSでも情報を発信します
フォロー・いいね お願いします！



Instagram



X (Twitter)



YouTube

お問い合わせ先

	大和キャンパス (看護・事業構想)	太白キャンパス (食産業)
教務関係[カリキュラム・シラバス等]	kyoumu@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
学生生活関係	gakusei@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
キャリア開発室[就職関係]	careerdev@myu.ac.jp	f-career@myu.ac.jp
後援会事務局	myu_kouenkai@myu.ac.jp	

お問い合わせの際は、ご子女の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

編集後記



再生・復活・変化・挑戦・成長というワードをよく聞くようになった。

「でるコン」や「サークル活動」のように“ワクワク”することに挑戦して努力が実を結ぶ1年であってほしいと願っています

過去の会報誌はこちらから <http://www.myu.ac.jp/campus/support/>

